



2020 年度 報告書

グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」事業

特定非営利活動法人キッズバレイ
令和3年5月10日

2020 年度 報告書 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)

特定非営利法人キッズバレイ
グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」

以下の通り、グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」の桐生・みどり地域を拠点とした活動を報告いたします。

【広める】

アウトカム（当初設定）「グリーフケア」という言葉を知っている人が増える

【当初設定】 講演会の開催 1 回（7 月） ■ アウトプット：参加者 100 名	【実績】 10 月 21 日（水）オンライン講演会実施（Zoom による） ■ アウトプット：参加者 約 100 名
	『ことのは』設立記念として、グリーフケアオンライン講演会を実施。 大切な人を亡くした悲しみ～こころの言葉に耳を傾けて～ ○本講演では、講師に上智大学の「グリーフケア研究所」特任所長 高木 慶子氏を迎え講演会を実施。当事者 4 割・当事者を支えたい方が 6 割程度参加。様々な「グリーフ」の状態について具体的な事例を交えてお話を聞くことで、参加者の理解が深まり「グリーフケア」が広まるきっかけを提供した。 ○講演後は、座談会・サポーター連携への問い合わせが多いことから、必要としている方へ届いていると実感する。引き続き、継続的に情報を届けられるよう活動していく。
【当初設定】 リーフレットの作成と設置 ■ アウトプット：30 か所	【実績】 リーフレットを作成、グリーフを抱えた方が手に取れると想定される各事業所へ配布。リーフレットの他、HP・Facebook を作成し情報を必要としている方へ届けるためのツールの整備を行った。 ■ アウトプット：リーフレット設置箇所 約 61 箇所
	設置希望の各事業所へ持参・送付。 ○リーフレット 2 種類作成 当事者用・サポーター用 当事者用：印刷 11,100 部、うち配布済み 2,097 部 サポーター用：印刷 10,200 部、うち配布済み 1,532 部 ○リーフレット立て 2 種類作成 当事者用：作成 300 個、うち配布済み 55 個 サポーター用：作成 300 個、うち配布済み 45 個 ○ホームページ URL https://cotonoha.info/ ○Facebook URL https://www.facebook.com/cotonoha.info

アウトカムに対する評価

講演会を実施したことで、多くのメディアにも取り上げてもらい、参加したい、支援したいという反響をいただいたことで、当初のアウトカムは達成できた。



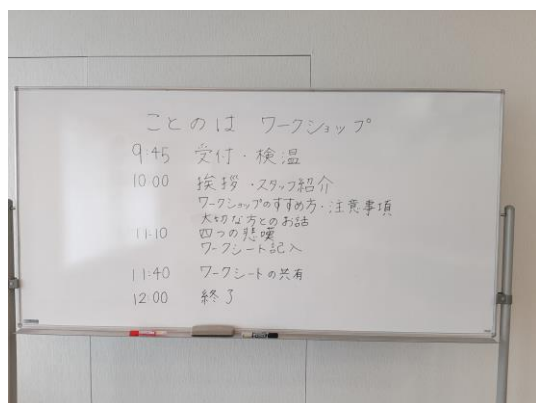
グリーフケア・ネットワークぐんま 『ことのは』
ありのままの気持ち こころの言葉＝「言の葉」を大切にしたいという思いをこめて
団体名・ロゴを作成した。

【ケアの場】

アウトカム（当初設定）

- ・大切な人を亡くした悲しい経験を話すことができ、安心して涙を流すことのできる場が地域にある
- ・自分が異常でなく、正常なグリーフのプロセスをたどっていることを理解することで、心の負担が軽減する
- ・子どもを亡くした辛く深い悲しみを分かち合う事のできる当事者同士のつながりが生まれる

【当初設定】 ・大切な人を亡くされた方座談会 2回（9月・3月） ・お子さんを亡くされた親座談会 3回（10月、12月、2月） ・ワークショップ 1回（11月） ■アウトプット ・グリーフケア座談会＆ワークショップ参加者 70名	【実績】 時期と開催場所を見直し実施した。 ・プレ座談会 1回（7月／桐生市市民文化会館）3名 ・大切な人を亡くされた方 座談会 2回（2020年11月@桐生・2021年2月@太田）8名 ・お子さんを亡くした親 座談会 2回（2020年12月@太田・2021年2月@桐生）2名 ・ワークショップ 1回（2021年3月12日@桐生）8名 ■アウトプット 参加者 21名（プレ座談会：3名、大切な人を亡くされた方：8名、お子さんを亡くされた方：2名、ワークショップ：8名）
 	○感染症対策をしっかりとしながら、安心してお話をできる場づくりを心掛けながら開催。座談会に参加した方へワークショップへ参加し「気持ちの整理」をして頂く流れをつくる。 ○参加者からの声には「救われた」「また開催してほしい」とあり、かなしみを共有できる場が必要だと感じた。 ○お子さんを亡くされた方の回での参加者が1名だった際に、ご本人から「やはりお子さんを亡くされた方は身近にいないのではないか。私だけなのか」という率直な不安なお気持ちを聞いた。当初は一人であれば欠席との連絡をいただいたが、当日はファシリテーターがお子さんを亡くされた方であったということを伝え、お気持ちが向けばということで待った。結果その方も参加していただき、少しではあるが気持ちが落ち着いた様子であった。 ○グリーフケアワークショップは、座談会の参加者を主に参加の声をかけた。参加者は、気持ちを書き出すことで座談会のときとはまた違う気持ちに、気づいた様子だった。「故人の話ができて、泣いてもよくて、言葉につまっても良くて、皆さんのお話も聞くことができた」と感想をいただき、安心して涙を流せる場をつくりたいと実感した。
アウトカムに対する評価 「誰にも言えなかった」「辛いのは自分だけだと思っていた」という参加者のこえからも、これまで地域に無かった場所を新たに作れたということが実感できた。一方「当事者同士が自然と話ができる」ような、参加者同士のつながりは、安定して集まるようにしないと感じづらい。コロナ禍で集まりづらい中ではあるが丁寧に場を整え、つながりの部分を意識していきたい。	



ワークショップの流れ



座談会・ワークショップの参加者が手に取れるよう会場内へ、グリーフに関する本のコーナーをつくった。本を通して参加者同士の交流もあり、緊張感が解れるきっかけとなっていた。

【人材育成】

【当初設定】 ・ファシリテーターの養成 ■アウトプット ・ファシリテーター 8 名 ・ボランティア 10 名	【実績】 ・サポーターとして活動を希望の方へ、基礎講座・養成講座を受講していただく。 ■アウトプット ・ファシリテーター：3 名、ファシリテーター候補：4 名（計 7 名） ・ボランティア希望者：8 名
	受講 ・グリーフ専門士協会 オンラインによる受講（3 名受講済） ・グリーフケア協会 オンラインによる受講→2021 年 2 月（6 名受講済） ・勉強会「グリーフケア基礎講座」オンラインによる受講 2021 年 1 月・2 月開催（10 名受講済）講師：グリーフ専門士協会 ・勉強会「こどものグリーフ勉強会」オンラインによる受講 2021 年 3 月開催（8 名受講済）講師：サンザシの家 藤田尋美様
講演会の様子がメディアに報じられたことで、協力したいという問い合わせをいただくことができた。その後もリーフレットや SNS を見てお声がけいただくこともあり、発信の重要性を実感した。今後は、定期的に説明会等を開き、参加しやすい体制を整えらるとともに、参加後の学びの場の設定や活躍の場づくりについても、体系的にしていきたい。	

Q 1. 印象深かった内容をお知らせください。

子供にとっての『遊び』の大切さ、京都アニメーション事件犯人の言葉、火山の部屋、体罰の目的と目的の目的、涙と笑いの大切さ、誰かに話を聞いて貰う事がスタート...という事、鬱病のキャンペーン、等等

子どもが死別を体験すると、身近な家族も死んでしまうのではないかと不安を抱く点や、子どもが行動を通して死別した家族の面影を追う点などが印象深かったです。

死別ではなく離別のグリーフに力を入れていた点が印象深かったです。死別よりも離別のグリーフを抱えるお子さんの方が、数も圧倒的に多いはずなのに、離別に対するケアというのは確かに聞いたことがなかったです。

子ども自身が解決していくことを、サポートするという。サンザシの家へ1年生から通っているお子さんのお話、ずっと継続して寄り添うことの大切さを感じました。

Q 2. 気づきや学んだことをお聞かせください。

子ども達の声にならない言葉、感情...ここをフォローしようとする場があって嬉しく感じました。そうそう!!と共感する部分がとても多く、自分が感じていた事が間違っていたのではなかったとホッとしました。

先生のお話をもっともっと聞きたいと思いました。今回のような講座をもっと多くの人達が学ぶ機会があれば、優しい世の中になるの...と思いました。

子どものグリーフについての勉強会でしたが、普段の子育てにも精通すると感じました。また、死別だけではなく、離別に関しても子どもはグリーフを感じていることを学びました。

子どものグリーフが、その子の今後の成長、生き方にも影響を及ぼすことを考えると、子どものグリーフケアの必要性がとても大事なのだと感じました。

火山の部屋は我が家にも取り入れたいと思いました！

幼いころから、自分の素直な感情を出せる・「泣いてもよい」「おこってもよい」という安心できる環境を整えてあげることが大事だと思いました。

21 年 3 月開催：こどものグリーフ勉強会 参加者アンケートより

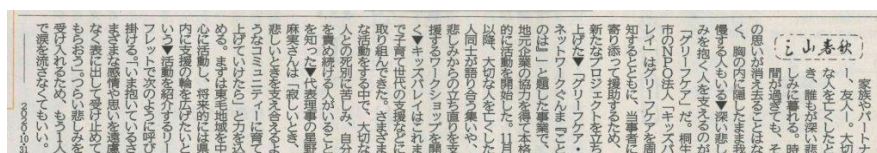
【基盤形成】

【当初設定】 グリーフケア・ネットワーク群馬準備会として協力団体（行政、社協、病院、介護事業者、葬儀社、銀行、保育教育施設、その他民間企業）を募集	【実績】 ・桐生、みどり地区を中心にリーフレット・グリーフケア講演会への声がけをきっかけとし、協力団体を募った。 ・活動の地域を広げていくため、前橋方面でのつながりを積極的につくり、リーフレットやチラシを送付。
	○行政・学校関係→リーフレット設置・チラシ配布 ○寺院→リーフレット設置 ○桐生市社協→民生委員・民生委員児童委員さんより、必要な方への声がけのお願い。 ○病院関係→リーフレット設置、座談会へのお誘いのお願い。 ○銀行関係→リーフレット設置のお願い。
リーフレットを設置することで、目に留まる機会が増えた。まだお届け出来てない先へ継続して設置の依頼をしていきたい。	

メディア・取材



2020.10.22 上毛新聞 取材：講演会の様子 2020.10.21NHK「ほっとぐんま 630」

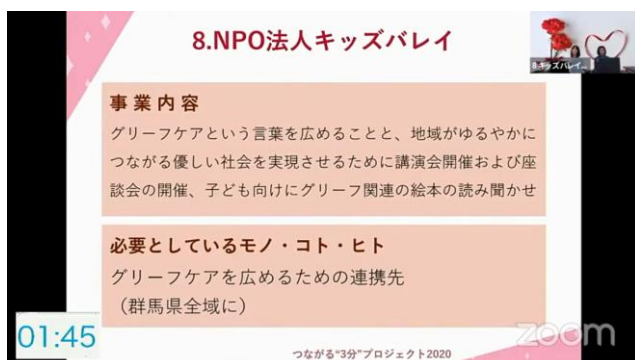


2020.10.31 上毛新聞「三山春秋」

20.11.18 第1回『このはカフェ』開催しました(桐生タイムス)



20.10.26 桐生タイムス取材：講演会の様子



21.1.13 開催されました
『オンライン』でつながる“3分”プロジェクト2020



20.10.2 上毛新聞に掲載されました

活動写真



ここのはカフェ（太田市民会館）



ここのはカフェ（桐生市市民文化会館）



講演会の様子 2020.10.21



ワークショップ（桐生市市民文化会館）



受配表示（コトモ：カウンター）



受配表示（備品：グリーフ書籍）